

南国市 小中連携学力向上 推進プラン

<平成23年度～平成25年度>

次代を担う子どもたちのために



かがやく明日への人づくり
あいさつ 掃除 授業 家庭学習

南国市教育委員会 南国市小中連携学力向上推進委員会

かがやく明日への人づくり
あいさつ 掃除 授業 家庭学習

南国市教育委員会 南国市小中連携学力向上推進委員会

平成23年 2月24日

南国市教育委員会
南国市小中連携学力向上推進委員会

1 南国市の小中連携の現状と課題

南国市の小中連携教育の取り組みは、その重要性や必要性については、10数年前から唱えられた。北陵中学校区では平成11年から、CRT等の分析結果や、授業交流等を中心とした実践、そして、鳶ヶ池中学校区では人権教育を中心とした保小中の連携実践等が行われてきた。これまでは、小中学校の教職員が交流する出前授業方式の交流、小学生の中学校体験入学や部活動体験、文化祭・体育祭への参加・見学といった行事的な交流が中心であった。さらに、数年前からは、中学校区での教科指導（算数・数学、国語）をテーマとした合同研修会の開催等により、継続的な研究や多面的な学校間連携を模索する取り組みが行われていた。

しかし、不登校問題やいじめ・虐待の問題、学力問題など課題は今なお山積しており、その解決のために、平成20年度からは、「南国市小中連携学力向上推進プロジェクト事業」を立ち上げた。小中学校が連携し協働で取り組むことで、生徒指導上や学習指導上の課題を克服し、南国市学校教育指標「かがやく明日への人づくり」を具現化するために、すべての中学校区で義務教育9年間を通した小中連携教育の推進を目指している。

そのためには、これまでに実践されてきた学校間の連携や交流の取り組みの成果と課題について情報交換し検証するとともに、新たな小中連携の取り組みとして再構築し、今後の各中学校区での小中連携教育の具体的な取り組みを推進していく必要がある。

2 小中連携教育の意義

現在の子どもたちを取り巻く問題の解決や、教育活動の様々な課題の克服については、小中連携教育の推進が重要な手法であると考ええる。

子どもたちに「生きる力」（確かな学力、豊かな人間性、健康と体力）を育むためには、小学校と中学校という単位で捉えるのではなく、義務教育9年間を見通した、子どもたちの発達段階に応じたきめ細かな、系統性と継続性のある学習指導と生徒指導に取り組むことが必要である。

小中連携教育の意義は大きくまとめると、以下のものがあると考え取り組みを行っている。



1 小中が連携して組織的に取り組むことで、個々の教員の指導力の向上及び教育の質の向上が期待できる。

2 学習指導や生徒指導における小中学校の違いを比較研究するなかで、それぞれの長所を取り入れた組織的な指導方法の工夫・改善を図ることができる。（授業改善）

3 教育課程の9年間の系統性の理解だけでなく、段階性と連続性の研究により、多面的・組織的な教科理解が進む。（教科理解）

4 小中学校の教職員の連携を深めることにより、学校間の指導の段差を解消し、個に応じたきめ細かな継続的指導を行うことで、子どもたちの不安感を軽減することができる。（不安感をドキドキ・ワクワク感に。中1ギャップの克服）

5 9年間を通した児童生徒の関心や意欲、規範意識の違いなどの調査により、発達段階に応じた系統的な指導法の研究が深まる。（10歳の壁）

6 小中学校の子どもたちが交流することにより、子どもたちの成長に必要な異年齢の人との関わりが体験でき、尊敬や思いやりなどの豊かな心を育むことができる。

7 地域の連携が深まり、学校・家庭・地域が一体となった教育活動を展開することができる。

3 南国市小中連携学力向上推進プラン

南国市では、「学力向上」と「人権教育を基盤とした生徒指導」を両輪として、義務教育9年間で「学力・気力・体力」を十分に備え、自らの進路を自らの力で切り拓く児童生徒の育成を目指して取り組みを行っている。

本プランは、南国市教育委員会と南国市小中連携学力向上推進委員会が策定する小中連携した学力向上を目指したプランである。

計画期間は、おおむね3年間（平成23年度～平成25年度）を目途とし、目標と具体的研究内容を示したものである。



南国市学校教育指標：「かがやく明日への人づくり」

「学力向上」と「人権教育を基盤とした生徒指導」を両輪として、義務教育9年間で「学力・気力・体力」を十分に備え、自らの進路を自らの力で拓く児童生徒の育成を図る。



義務教育9年間を見通した系統的・継続的な教育

小中連携した「学力向上」の取り組みの推進

南国市小中連携学力向上推進プロジェクト事業

第1期 平成20年度～平成22年度
第2期 平成23年度～平成25年度

南国市小中連携学力向上推進委員会(注2)



南国市小中連携学力向上推進プラン 平成23年度～平成25年度

研究内容：小中連携による組織的なPDCAサイクル(注1)の確立

具体的研究内容

- ①小中連携による組織的な推進体制の確立
- ②小中連携による学力向上の実践研究
(重点取り組み：規範意識の育成、授業改善、家庭学習の定着)

◆客観的なデータ・アンケート結果

児童生徒一人ひとりの「学力の定着状況」や「心の状況」を把握し、個に応じた対応・配慮を組織的に行う

中学校ブロックアクションプラン(平成23年度～平成25年度)

実践交流

●中学校区を核とした

- 小・小連携の推進
- 家庭や地域との連携
- 小中連携を図ったカリキュラム編成 等の取り組みをさらに推進します。

(注1)PDCAサイクルとは：どこに問題点があるかを考えて方向を定め(Plan)、その方向に則して着実に実行(Do)し、その実行結果を客観的に検証し(Check)して、改善すべき点を実務に取り組んでいく(Action)。また、それを踏まえて次のPlanを立案していくというサイクル。

(注2)南国市小中連携学力向上推進委員会：各中学校ブロックから2～3名の推進委員を任命し、小中連携学力向上の取り組みについての具体的な計画等について協議を行い、全市的な取り組みを推進しています。

南国市小中連携学力向上推進プラン

南国市のめざす児童生徒像

「学力向上」と「人権教育を基盤とした生徒指導」を両輪として、義務教育9年間で「学力・気力・体力」を十分に備え、自らの進路を自らの力で拓くことのできる児童生徒。

学力の定着状況についての目標

- 【目標】①全国学力・学習状況調査において正答率が全国平均値を上回る。
②到達度把握調査における正答率が全国平均値を上回る。

研究内容

学力向上のための小中連携による組織的なPDCAサイクルの確立

具体的研究内容について

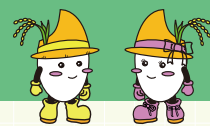
児童生徒に確かな学力を身につけさせるためには、義務教育9年間を見通した系統的・継続的な取り組みを行うとともに、日々の授業を通して学習内容に対する理解を深め、自ら学ぶ意欲を育てることが重要である。

本プラン（南国市小中連携学力向上推進プラン）では、中学校ブロックでの研究内容を「学力向上のための小中連携による組織的なPDCAサイクルの確立」とし、次の2つの具体的研究を日常の教育活動において全教職員が一体となって取り組み、短いスパンで検証と改善を図っていくこととする。

1 小中連携による組織的な推進体制の確立（課題に基づく具体的行動連携）

小中連携教育を連携準備期（ステップ0）から連携強化期（ステップ3）に分けて指標を示す。それぞれの中学校ブロックの特長を生かし、どのように連携教育活動を行えば、子どもたちの学力向上に結びついていくのか、協議・実践・検証し、具体的行動連携による組織的な推進体制の確立をめざす。

ステップ	①学習指導・評価表（通知表）	②生徒指導、児童生徒理解	③児童会、生徒会、学校行事 等	④校内研究会・研修会	⑤学校運営面（教育目標、管理職、校務分掌）	⑥地域・PTA
ステップ0 連携準備期	・相互授業参観（1～2教科程度） ・家庭学習の手引	・小中担任同士の児童生徒の指導打ち合わせ	・年1回程度の行事連携（クリーン作戦など）	・行事など打ち合わせ会議	・管理職等による学校間の連絡調整	・PTA及び地域へ説明
ステップ1 連携開始期	・相互授業参観（複数教科領域） ・年に数回1教科（領域）ほどの乗り入れ授業・出前授業 ・家庭学習の手引の活用	・めざす児童・生徒像の具現化に向けた共通実践 ・学年主任、担任同士の生徒指導打ち合わせ	・年1回程度の行事連携 ・部活動体験 ・児童会、生徒会活動連携の模索	・年1回程度の合同研修（テーマ例：学力向上など） ・校内研修を公開	・研究部会等による学校間の連絡調整模索 ・行事予定表の工夫 ・めざす児童・生徒像の共通化	・PTA及び地域へ連携開始連絡及び説明
ステップ2 連携推進期	・乗り入れ授業（複数教科領域） ・合同授業研究会（複数教科領域） ・評価の研修 ・指導法改善の研究 ・一部教科領域の系統表、カリキュラム作成 ・小中連携した家庭学習指導の模索	・小中連携を考えた生徒指導・学習規律指導の模索（生徒指導・規範意識の育成等の系統表、指導・支援計画） ・定期的な生徒指導担当同士による生徒指導連絡協議会	・年数回程度の行事連携 ・部活動体験 ・児童会、生徒会活動連携の実践	・年数回の合同研修・到達度把握検査等各種調査の結果分析と改善へ向けた研修（取り組み） ・研究目標の統一の模索 ・共通研究部会義の模索	・中学校ブロックアクションプランの作成・実施 ・小・小の連携（共通の実践項目等の模索） ・中・中の連携模索 ・研究部会等による学校間の連絡調整の実施	・PTA及び地域との連携・連絡及び行動連携
ステップ3 連携強化期	・系統表、カリキュラム作成・実践 ・合同授業研究会（複数教科領域）の充実 ・小中連携した家庭学習指導の実施・充実 ・連携教育における通知表作成と評価の研究 ・指導法改善の実践	・小中連携を考えた生徒指導・学習規律指導の実施・充実（生徒指導・規範意識の育成等の系統表、指導・支援計画の実施・改善） ・定期的な教頭、教務、生徒指導担当などによる生徒指導協議会の充実	・9年間を見通した児童会・生徒会活動の実践 ・児童会・生徒会活動・学校行事等の年間を通じた連携（例：クリーン作戦、遠足、合同合宿（小・小）、部活動体験など）	・到達度把握検査等各種調査の結果分析と改善へ向けた研修（取り組み）の充実 ・学期1回程度の合同研修（テーマ例：学習指導・学習規律など） ・研究目標の統一 ・各研究部会議の充実	・中学校ブロックアクションプランの実施・充実 ・小・小の連携推進（共通の実践項目の実践・充実） ・中・中の連携推進 ・研究部会等による学校間の企画立案・連絡調整の実施	・学校評価アンケートや保護者会などで地域の声の吸い上げ・情報発信 ・小中PTA連絡協議会



2 小中連携による学力向上の実践研究（規範意識の育成、授業改善、家庭学習の定着）

学校教育の基本は授業にあり、様々な工夫によって授業の質の向上を図る授業改善の取り組みは最重要課題である。

また、児童生徒の学習が充実し、一人一人がしっかりと学びを実感できるようにするためには、小中連携を図った発達段階に応じた規範意識の育成が必要である。

さらに、児童生徒の学習意欲を喚起し、生涯にわたって「自ら学ぶ力」を構築するためには、すべての児童生徒が自主的な学習習慣を身につけることが必要であり、授業と家庭学習との連携や学校と家庭の連携が必要である。

こうしたことから、南国市としての「重点取り組み」と、「小中連携による学力向上の実践研究の基本的な考え方」を示す。

重点取り組み

規範意識の育成

- 基本的生活習慣の定着
- 発達段階に応じた学習規律の定着
（「あいさつ・返事、掃除」の徹底）

授業改善

- しっかり教える
- じっくり考えさせる
- はっきりと発表（表現）させる

家庭学習の定着

- 授業と家庭学習、学校と家庭が連携した家庭学習の指導の徹底

＜小中連携による学力向上の実践研究の基本的な考え方＞

児童生徒の基本的な習得内容等

- 自ら学び取っていく、知的な学習の喜び
- 教科領域における知識・技能の習得
- 教科領域における思考力・判断力・表現力等の習得

- 学習規律の定着
- 聞く力・話す力・書く力・読む力（資料読解・活用力、調べる力、話し合う・表現する力）の習得
- 家庭学習の習慣化（授業との一体化）

- 所属感や連帯感
- 自尊感情
- 郷土愛

各教科領域の指導技術

教科領域共通の指導技術

知識・技能等の定着、
思考力・判断力・表現力等の育成、
言語活動の充実、問題解決的な学習の充実、
学習集団の育成、評価の方法・技術の向上 等

信頼関係

先生・子ども・保護者・地域の方々

- 毎日の生活の基礎・基本（基本的生活習慣等）
あいさつ・返事、掃除・整理整頓、学習の準備、身だしなみ、友だちづきあい、
場にあった言動（感謝の気持ち）、早寝・早起き、食事、安全への配慮 等

- 家庭、就学前の教育・小・中学校、地域で連携を図った発達段階に応じた継続的な指導。

小中連携による基本的な実践研究内容

- 教材研究・構成・系統性
（ネタの豊富さ・先生の引き出しの多さ）

- 学習規律の指導の徹底
- ノートのとらせ方
- 話し合いのさせ方
- 評価の仕方・技術
- 指導技術（先生の巧みな言語力・判断力・表現力等）
- 児童生徒の意欲化
- 学習集団づくり
- 家庭学習の指導

- 実態把握・分析
- 学級経営
- 児童生徒理解（心理・心情をしっかりと把握）

目的

全国学力・学習状況調査等の結果分析からみられる本市の教育課題の解決に向けて、小中連携による組織的なPDCAサイクルを確立するとともに、地域の特色や課題に応じた中学校区ごとの連携教育の充実を図る。

平成23年度 南国市小中連携学力推進プロジェクト事業

南国市教育委員会

- 1：推進委員会の設置及び開催〔年4回程度開催〕（進捗管理、検証、成果普及、H24 プラン）
 - ①5月下旬（平成23年の取組共通認識） ②8月下旬（中間総括） ③10月（平成24年度予算）
 - ④12月（検証まとめ） ⑤2月（啓発資料検討）
- 2：小中連携担当者連絡協議会の開催〔年4回程度開催〕
 - ①5月下旬（合同） ②7月 ③8月下旬（合同） ④12月
- 3：学習に関する実態調査の実施〔調査Ⅰ児童生徒対象（年2回）調査Ⅱ児童生徒・保護者等対象（年1回）実施〕
- 4：中学校ブロックアクションプランの推進
- 5：南国市小中連携カリキュラム作成
- 6：先進モデル校（地域）視察研修・実践発表
- 7：4中学校ブロック実践交流の実施

- コーチング研修の開催 → 教員の資質・指導力の向上を目指した組織マネジメント研修
8月上旬（各校2名程度：中核教員研修）
- 小学校外国語活動学習支援 → 小学校外国語活動支援員の配置

推進中学校区（管内全小中学校）中学校ブロックアクションプラン

香長中学校ブロック

十市小 稲生小
三和小 大篠小
香長中

香南中学校ブロック

日章小
大湊小
香南中

鷺ヶ池中学校ブロック

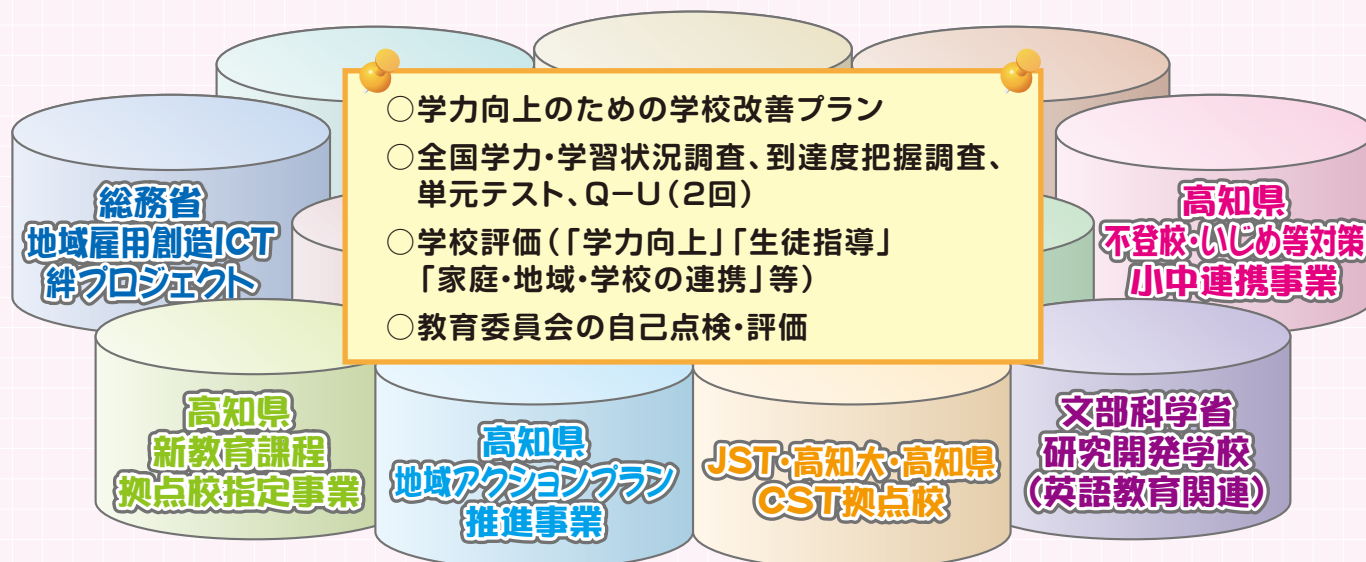
後免野田小
長岡小
鷺ヶ池中

北陵中学校ブロック

たちばな幼 国府小
岡豊小 久礼田小
白木谷小 奈路小
希望が丘分校 北陵中

研究内容 学力向上のための小中連携による組織的なPDCAサイクルの確立

- 1：小中連携による組織的な推進体制の確立 → 課題に基づく具体的行動連携
- 2：小中連携による学力向上の実践研究 → 規範意識の育成、授業改善、家庭学習の定着





平成22年度〈2010年度〉南国市学校教育指標

わがやく明日への 人づくり

21世紀を担う子どもたちの「生きる力」を育む教育の推進

- Ⅰ 「知育」、「徳育」、「体育」、「食育」のバランスのとれた、南国市の歴史と文化を生かした教育を創造します。
- Ⅱ 「学力向上」と「人権教育を基盤とした生涯指導」を両輪として、義務教育9年間で自らの進路を自らの力で切り拓くことのできる「学力・精神力・体力」をバランスよく身につけた児童を時の育成を目指します。
- Ⅲ 就学前の保育・教育との連携及び、各中学校区の小中連携による新しい連携型の教育を創造します。
- Ⅳ 開かれた学校づくりを推進し、学校評価を生かした「学校・家庭・地域」の連携による教育力の向上を目指します。

保幼小中連携による教育の推進

平成22年度の重点項目

**新しい
まちを創る
教育**



「生きる力」を育む教育の推進
基礎学力の定着と学力の向上（PDCA）
いじめ・不登校等を生まない学校・学級づくり
「食の自立」を育む食育の推進
学校評価等を生かした学校・家庭・地域の
連携による教育の推進

**新しい
時代を拓く
教育**



南国市教育委員会幼保支援課開設（平成22年4月1日）

南国市教育委員会

家庭学習100%の南国市



家庭学習の習慣が身につく3つのポイント

ポイント② 学習習慣づくり

- ①決まった時間になったら机に向かう
- ②机の上は学習用具だけ
- ③「ながら勉強」をしない
【テレビ・食べる・ゲーム・メール】
- ④文字をていねいに正しく書く
- ⑤まず宿題をする
- ⑥できれば宿題以外にも予習・復習をする
【小学校4・5年生ごろから】
- ⑦いろいろな本をたくさん読む

ポイント① ご家庭の方の関わり

- ①早寝・早起き・
朝ごはん
【生活リズムを整えよう】
- ②親からすすんであいさつをしよう
- ③子どもの行動に関心をもとう
- ④親子の会話を大切にして、子どもとのふれあいをもとう
- ⑤子どものがんばりを具体的にほめよう
- ⑥読み聞かせや一緒に本を読む時間をもとう

学習時間のめやす ポイント③

- 小1 20分 以上
- 小2 30分 以上
- 小3 40分 以上
- 小4 50分 以上
- 小5 60分 以上
- 小6 70分 以上
- 中1 80分 以上
- 中2 90分 以上
- 中3 100分 以上

パターン①

午後4	5	6	7	8	9	10	11		

パターン②

午後4	5	6	7	8	9	10	11		

パターン③

午後4	5	6	7	8	9	10	11		

家庭学習の計画をたてよう
(食事、勉強、寝る時間などを
書き込みましょう。)

計画をたてよう
プラス♥

南国市家庭学習の手引き

南国市小中連携学力向上推進委員会
南国市PTA連合会
南国市教育委員会

学校名 名前